

鈴木鎮一著「実能力と曲との釣合」

Suzuki Method 才能教育 170、冬 2009 ~ 10、才能教育研究社刊を読む

実能力と曲との釣合

1. 勉強の少ない生徒は教材が進まないのが正しい。少しもやらない生徒は少しも進めないのが正しい。正しくよく勉強して実能力が育ってゆく生徒は、その力に応じて教材を進めてゆくのが正しい。正しく極めて多く勉強して、どんどんと実能力が育ってゆく生徒に対しては、どんどんと教材を進めてゆくことが正しい。
2. このような教育を、確固たる信念をもって先生も親も実行するところに、才能教育の革新的信念があるのです。
今日からこれを実行してください。そして一日も早く、すべての子供を、きちんと、それぞれの努力に応じた姿に育てていただきたいものです。
3. 教材の程度が低くとも、実能力と釣り合ったものを、きちんと立派に弾くように育てるならば、それは正しい教育が行われた証拠であり、決して落伍した姿ではないのです。たとえそれが、相当に永い時間を経過していながら教材の程度が低いとしても、勉強の時間が少なかつただけであって、教育の成果は正しく表わされているのです。やがてその子供が努力し始めるならば、必ず立派に育ってゆくのです。
4. 落伍の姿はそのようなものではなくて、実能力と曲とが釣り合わなくて、一生懸命に努力をしているにもかかわらず、常に実能力よりも早く曲を進めてしまうために、いつも努力しながらも、曲が情けない出来栄で弾かれている姿。このような子供こそ、教育の失敗によって、救うことのむずかしい落伍者の姿へ育ててしまったことなのです。
5. 努力していながら駄目にしてしまう。その子供は程度の高いものを弾きながら、教育の失敗の犠牲となったもので、私から見れば、全く育て損なわれた姿としか見えないのです。
6. 才能教育では、勉強しない生徒は教材を進められることがない。進めては駄目にしてしまう。ということが当然な常識となるようになってほしいものです。その代り、正しく勉強する生徒は、人々の驚くような進み方をするのも当然となるべきです。

7. 人間の能力はそうしたものです。

しかも、このことはどの子供でもそうです。

どの子も育つ育て方ひとつ

という主張を、本会の会員と先生との正しい理解と協力とによって、世界の人々に向かってその実績を示していただきたいものです。

P08 ~ 09

[コメント]

バイオリン教育で著しい成果をあげつづける鈴木メソッドの主宰者であられた鈴木鎮一先生のお考えは、すべての教育につながるものと確信いたします。

- 2009年12月23日 林明夫記 -